



平成26年証券アナリスト第1次試験（秋試験）

解答速報！

2014/10/10 現在

【財務分析】

第1問（34点）

問1 A 問2 C 問3 A 問4 B 問5 D 問6 C 問7 B 問8 D
問9 C 問10 D 問11 B 問12 A 問13 A 問14 C 問15 A 問16 A
問17 C

第2問（12点）

問1 D 問2 B 問3 E 問4 D 問5 B 問6 E

第3問（18点）

I

問1 B 問2 D 問3 B

II

問1 C 問2 B 問3 E

III

問1 D 問2 C 問3 A

第4問（26点）

(1)

① J ② B ③ I
ア C イ E ウ B

(2)

④ I ⑤ H ⑥ B

(3)

エ D オ A カ A

(4)

⑦ A ⑧ F ⑨ I
キ C ク D ケ B コ A

(5)

⑩ F ⑪ D ⑫ A ⑬ C ⑭ G
サ D シ E

この解答速報の著作権は、TAC（株）に帰属するものであり、無断転載・転用を禁じます。

なお、この解答速報は、TAC 独自の見解に基づくものであり、正解であることを保証するものではありません。また、後日情報を更新する場合がありますので、ご質問などの受付はいたしかねます。

この解答速報の著作権は、TAC（株）のものであり、無断転載・転用を禁じます。



2014証券アナリスト1次試験（秋）

「財務分析」

2014年（秋）試験は、例年通り大問4問の出題で、各大問への配点も同じであった。第1問の正誤選択問題の難易度が高い一方で、分析総合問題は高得点が可能な内容であり、全体として例年通りのレベルであったと思われる。具体的な内容は、以下のとおりである。

第1問の正誤選択問題は、17問の出題であった。会計制度を中心とした出題であり、新株予約権やデリバティブ会計など、一部細かな論点が見られたが、大半は繰り返し問われている典型的論点であった。全体的な難易度は例年と同程度であり、12問程度が解答目安と思われる。

第2問の個別計算問題は、6問の出題であった。包括利益や部分純資産直入法によるその他有価証券評価差額金の算出を除けば、基本的な計算処理が問われており標準的な難易度の出題であった。

第3問の総合計算問題は、9問の出題であった。Ⅰリース会計、Ⅱ企業結合会計、Ⅲ退職給付会計について3問ずつ出題された。従来になかった条件設定や資料の形式の出題も見られたが、例年と比較して平易な内容の出題であった。

最後の第4問の分析総合問題は、オーソドックスな内容中心の出題であり、難易度も標準的で十分に満点を狙える問題であった。なお、損益分岐点分析において総費用法が出題され目新しかったが、問題文の指示と前期のデータから解答を導くことは容易であったと思われる。

以上

TAC 証券アナリスト講師室